

花ちゃん、オー君、モンタ博士のかくかくドキドキ立ててく4

国立市立国立第七小学校

平成29年1月16日 NO.82 (382)

オー君 「ねえねえ、花ちゃん！土曜日・日曜日ととっても寒かったね。」

花ちゃん 「そうね、寒かったわね。今が一番寒いわね。寒いといえは、すっかり校庭の木も葉を落として、国立七小の校庭もさみしい感じですね。」

オー君 「そうだね。こんなに寒いと花も咲かないね。」

モンタ博士 「本当かな。二人とも校庭をよく見ているかな。今を盛りに咲き始めた花もあるよ。ほらほら、あそこだよ。見てごらん。」

花ちゃん 「あ！本当だ。気がつかなかったわ。」

オー君 「あ！これか、ふむふむ。とてもいい香りがする花だな。何ていう花なの。」

花ちゃん 「これは、スイセンというお花よ。私、大好きだわ。」

モンタ博士 「モンタ博士も大好きだね。こおりつくような大地から、生き生きとした葉を伸ばして、清らかな花を咲かせるスイセンは、北風の中にあっても、凛としていて、どこか春の息吹を感じさせるからね。」

花ちゃん 「春の息吹…、春の足音…。いい言葉ですね。心がほっこりする感じですね。春はまだまだ先と思ったけど、少しずつ季節は変化しているんですね。」

モンタ博士 「気品あるスイセンの花の、清楚な香りに包まれて迎える初春は、新生の気に満ちていて、最高なんだよ。」

花ちゃん 「わたし、お正月にスイセンなどのお花を飾るのを見たことがあるわ。日本には、スイセンはなくてはならないものですね。」

モンタ博士 「でも、スイセンは元々日本の植物ではないんだよ。鎌倉時代（800年くらい前）か室町時代頃（450年くらい前）に日本に渡ってきたらしい。」

オー君 「え、それじゃ、今、あちこちの日本中に見られるスイセンというのは、どうしてあるのですか。」

モンタ博士 「それはね、長い年月をかけて日本にたどり着いたものが、日本の自然にうまく対応して育ちはじめたということなんだよ。紀伊半島、伊豆半島、南房総、



スイセン (ヒガンバナ科)

えちぜんみさき 越前岬など、くろしお あら かいがん 黒潮の洗う海岸にいっぱい咲くんだ。それはそれは見事だよ。」

花ちゃん 「スイセンの花の、もともと う 生まれ、ふるさと 故郷はどこなのですか。」

モンタ博士 「ちゅうごく 中国ではなく、シルクロードよりもさらににし 西。はるかちちゅうかいほうめん 地中海方面から伝えられたらしい。まあ、よう 要するに、スイセンは『はるかなるたびびと 旅人』といったところだね。」

オー君 「『はるかなるたびびと 旅人』か……。いいことば 言葉だな。ぼくもどこかとお 遠くへたび 旅をしてみました。」

花ちゃん 「たび 旅といえば、モンタ博士は、このふゆやす 冬休みに『おきなわ 沖縄』に行ったんですね。」

モンタ博士 「そうだよ。とってもよかったね。それで、くにたちななしょう 国立七小のこども 子供たちへのおみやげ 土産として、いろいろなサンゴやきれいなかい 貝をひろ 拾って来たから、みんなにあげよう！」

おきなわ 沖縄のサンゴや貝がほしい人は、こうちょうしつ 校長室までどうぞ！ 1人1個ずつです！
(無くなりしだいしゅうりょう 終了しますのでよろしく！)